

大富区の現状と課題

大富区長 山村 孝夫

秋の訪れと共に早いもので区長の大役をお引き受けすることになって半期経過しましたが、お蔭様で大過なく推移しております。皆様方のご指導・鞭撻の賜物と厚く御礼申し上げます。

さて、我が大富区では七月の炎天下、毎年恒例の夏祭りが盛大に開催されましたが、氏神白山神社様の厄払い茅の輪くぐり神事も平成十五年度からお祭りにあわせて同時に行われるようになって今年で三回目となり、年

毎に区民の皆さんにも周知されるようになってお参りされる方が増えつつあることは誠に喜ばしい限りです。お祭りの催事については広く区民の皆さんに積極的に参加してもらい意味合いで、公民館登録文化団体から三団体に参加して頂きましたが、物珍しさもあり大変好評をいただき主催者として、町内会長ともども有り難く感謝しているところでございます。

ところで、大富区が現在直面している課題は道路



路の路線問題であります。仲森池と白山神社間を南北に縦断している土岐市計画道路「大富高山線」が早期に拡幅整備されるよう要望しているところであります。市側の意向は計画道路としては存続させるが時期的なことについては、はっきり回答できないというのが現状であります。

しかしながら、昨今の現状では「おりへの丘団地」の住宅建設はかなり進行しており町内会加入世帯も順次増加の傾向です。そのため必然的に交通量も増加しているのが実態であります。特に泉公民館横の複合交差点は学童の通学路にもなっており交通事故がいつ発生してもおかしくない地点です。それ故、応急対策としてなんらかの交通規制が必要であると考へ、速度制限等の規制措置を今年度要望事項として市役所に提出しております。

さらに、検討課題として大富山の保守管理について如何に発展持続させて行くべきか組上に挙げており、大富区の草山は貴重な財産であり、また里山として区民の憩いの場でもあり、次世代にしっかりと引き継いで行く問題でもあります。

そのようなことを基本理念にして現在しかるべき検討を行っているところでございます。

どうぞ皆様方の暖かいご支援ご理解を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

久尻区の問題点

- 一、 駅裏という呼び方
- 二、 草刈と少子高齢化
- 三、 広大な空き地

久尻区長 筧 一彦

あれから五ヶ月、区長として、なんとか職責を果たして参りました。あの人々に「スタッフ(男女六名)に恵まれて得たな」と云われましたが、全くその通り、おまけに町内会長として女性部推進委員(大半は町内会長夫人)のみなさんにも大きく助けて頂き、只々感謝あるのみの毎日であります。

さて表題の件について申し上げます。

一、 駅裏の呼称を変えよう

裏とは、イメージが悪いと云う人が多い。表に対して、裏の方が断然優越的である。裏切、裏社会、裏返し等、あまり良い意味とは云えない。だから駅裏は公用語には使用されていまいと思っております。今は、久尻という呼称が「駅裏」に取って代わっているようでもあります。この問題、人それぞれと云う方もあるかと思ひますが、敢えて投げかけてみます。因みに、名古屋は、駅西と改稱し同時に大開発して面目を一新しております。

二、 草刈と少子高齢化

久尻区の最も大きな行事は、春と秋、年に二回行う大掃除であります。その作業の大半は、道路際、公園等の草刈であり、

あ、ところで、久尻には傾斜面が非常に多い、こういう危ない場所は、屈強な男性が自ら引き受けて頂いております。有難い事だと感謝しております。最近ある町内会長から、こういう事を聞きました。「今まで、傾斜面の草刈をやって頂いた方が、足許が寛楽なくて今年頼めない。弱った。」これは、高齢化に依るものであります。会長さん曰く「今年は、代わりの人があつたが、先行きは大変心配である。」まさに、少子高齢化の波を受けているのであります。

これに対して打つべき手があるかという仲々ないものであります。

前記の後日談、自前出来なければ外注に出そうと考へたが外注先も従業員が高齢化して出来ないと断られたとの事でした。

河合区の現況報告

区画整理事業と下水道整備について

河合区長 鈴木 一郎

河合区長の大役を担ってから早くも五ヶ月が過ぎますが、事の重大さを痛感する毎日であります。河合区には永年の懸案事項であります区画整理事業、下水道整備、公民館の改築、草山の衰退による財政難等難問の山積みであります。特に区画整理事業と下水道整備につきましては前区長の格段の努力によりまして区民の皆様に対して、二度の説明会が開催されました。本年度になり七月二十三日に区民の意見の集約の会と題して現況説明の意見の集約を計りました。が進展はみられず残念な

結果となりました。こゝで今一度区画整理事業と下水道整備の両案件の關係について補足しておきます。そもそも区画整理事業は昭和四十八年に都市計画決定の告示により始まり、その後幾多の紆余曲折があり平成十五年には区画整備組合設立準備委員会の解散となり三十一年度の月日が過ぎました。又一方、下水道整備につきましても毎年河合区の要望事項であり早期着工を要望されてまいりました。市当局の見解は都市計画法五十三条から二重投資となり着工不可能でありました。区画

整理組合設立準備委員会の解散後、市当局から区画整理事業の継続の是非を河合区として決定し、その判断の提示を求められた。しかしながら下水道整備の早期着工の為に市当局との折衝の結果、下水道要望地帯を外して田畑に限定した地域の区画整理の縮小案が提示されました。以上がこれまでの推移であります。河合区といたしましては、組合設立準備委員会の解散した今、

一、 区画整理事業の継続を断念する。

二、 将来の河合区発展の為、区画整理事業の可能性を残すとともに早期下水道整備着工の為に縮小案を裁定する。

この二者択一と思われ、今後河合区民の皆様方の英知と御協力いただき、微力ながらも河合区発展の為に尽くす所存であります。以上現況報告といたします。

誇るべき郷土の史跡を見直そう

泉大坪地区史跡保存会

御存じですか？東濃地区には国指定史跡は苗木城跡、恵那正家廃寺跡、土岐市乙塚古墳、段尻巻古墳、元屋敷陶器窯跡しかありません。古墳は乙塚古墳、段尻巻古墳だけが指定されています。乙塚古墳は大化の改新による薄葬令(646年)前後の巨石切石積みの方墳で明日香の石舞台古墳に準ずる立派な石組で完全に原型を保っており、参観者を楽しませます。この周辺には隠居山遺跡があります。隠居山には六つの横穴墳、16~17世紀の古墳跡群、7世紀の須恵器窯跡、1700万年前のパレオパラドキシア・タバダイの完全骨格が発掘された跡があります。この様に貴重な歴史遺産が点在するこの地域を郷土の誇りとして保存し、全国に文化の発信基地と認知されるべく私達は2003年7月史跡保存会を28名参加で立ち上げました。私達は先祖が残してくれた素晴らしい遺産を受け継ぎ後世に伝えていくことが出来るよう努めたいと念じております。毎月第3日曜日(予備日)次月第1土曜日)に周辺の保存、整備活動を行います。今後活動をしていくために会員を増やしたく参加希望がありましたら下記へお知らせ下さい。連絡先 ☎54-5064 酒井 清亮(事務局長)

行事予定

- 23 東濃地域安全推進大会
- 10/2 泉町民運動会
- 3 土岐市自治連絡協議会 理事会
- 9 秋祭り
- 15 泉町連合区長会
- 10月定例会
- 16 泉町自主防災組織研修会
- 20 土岐市自治連絡協議会